

# 第1回「国家財政の見える化」委員会

2019年2月26日(火) 14:00~16:00 国際文化会館

第1回「国家財政の見える化」委員会が開催され、有識者との意見交換や海外事例の紹介など、これまでの取り組みを振り返り、次年度の活動計画について議論を行いました。

また、後半は嘉悦大学・高橋洋一教授にお越しいただき、「国の決算書を読んでみる」というタイトルで講演をいただきました。

本委員会では、今回の講演のようにメンバーの知見を深める取り組みも行いながら、活動を進めていく予定です。なお、座長にはキンビール株式会社の布施社長にご就任いただくことが決定しました。



嘉悦大学  
大学院ビジネス創造研究科  
経営経済学部・ビジネス創造学部  
高橋 洋一 教授



## 【講演要旨】

- ◆ 「国家財政の見える化」と聞いた際、正直なところすでに国のバランスシート(以下B/S)は作成されており、これを見れば、国家財政は見えているのではと感じたが、改めて一般の方には見えていないということがわかった。国家財政に秘密があるかということと秘密はない。大切なことはB/Sをきちんと読むこと
- ◆ 企業でいうと関係会社を含めたB/Sが、国でいう連結会計ということになる。日本銀行を含めた「統合政府」としてみるのが常識である
- ◆ B/Sで、負債総額から資産総額を差し引いたネットの純負債額を見ると財政状況が分かる。客観的な数字で国の財政状況を判断するべき
- ◆ 「国家財政の見える化」実現に向けた生団連案にある、「複数年度予算」については、単年度主義という原則があるため難しい。また、様々な法律の改正は実際問題難しい。すでに作成されている「国の財務書類」を予算審議の参考資料に添付するといった現行法内での手続きが現実的である

## 【議事内容】(出席者からのご発言を一部抜粋)

- ◆ 一般家庭では暮らしの中で借金をつくらないようにつましく生活している中で、国家がどんどん借金することに不安を感じる。特別会計の資産超過があるのであれば、介護の分野に就く人たちの給料を上げるなど、必要なところにお金をまわしていくべき
- ◆ 赤字国債は、誰が負担しているのかということと最終的には日本国民。支出の内容を国民が分かるように議論しなければいけないと思う
- ◆ 納税者からすると特別会計はよく見えないし、無駄があるのではないかと感じてしまう。特に特別会計は予算参考資料にあったとしても、国民からすると国会で議論も承認も得られていないし説明不十分

